

地域とともに 50年

立正大学熊谷キャンパス 50周年



今年、立正大学熊谷キャンパスが開設され50年になります。今月号では、立正大学の歴史や地域連携について特集します。

◆商工業振興課 ☎内線 477

学長メッセージ

2017年、立正大学熊谷キャンパスは、開設50周年を迎えることができました。これもひとえに、本学に対する教育・研究活動へのご理解・ご協力の賜物と、心より感謝申し上げます。

大学での学びや研究、学生たちの成長は、地域の皆様に支えられ、社会との積極的な関わりの中で育まれております。特に、2016年に開設20周年を迎えた社会福祉学部、2018年に開設20周年を迎える地球環境科学部は、熊谷市民の皆さまをはじめ、地域の皆さまとの協力と連携の上に成り立っております。

熊谷キャンパス開設50周年の節目に当たって、これからも「社会的存在」「地(知)の拠点」として、社会連携・実践機能を一層発揮し、さらに、皆さまのお役に立てるキャンパスへと歩みを進めてまいります。



立正大学学長 齊藤 昇

学生さんにインタビュー

地球環境科学部

4年 鈴木 雄太さん

地域活性化について勉強しています！



どんな勉強をしていますか？

地理学を専攻しています。地理学といっても幅広く、私たちが研究しているのは、地域に根差した実践的な地域活性化についてです。

熊谷での生活は？

入間から車で通っています。熊谷のことは知っているようで知らないことが多く、県内でのつながりを意識するようになりましたね。

将来の夢は？

地域活性化をテーマに様々な人との関わりを持ちました。この経験を生かして、学んでいる地域社会の課題に今後も向き合っていきたいです。

社会福祉学部

4年 横橋 芽香さん

やさしい先生になるため、日々勉強中です！



どんな勉強をしていますか？

幼稚園と保育園の教員免許の取得を目指し、ピアノや栄養学などを勉強しています。幼稚園や保育園での実習もあり、子どもたちと楽しい時間を過ごしました。また、子どもへの虐待対策などの勉強もしています。

将来の夢は？

今は、幼稚園と保育園のいいところを兼ね備えた認定こども園の先生になるのが夢です。子どもも親も安心して預けられるような先生になるのが目標です。目標に向かって頑張ります！

熊谷キャンパス今昔物語

開設当時の様子



建設用地



開設当時の全景

12万坪に及ぶ広大な建設用地は、畑と水田が2割、ほかには雑木林で小さな小川が流れる丘陵地でした。

現在



大学正門



現在の全景

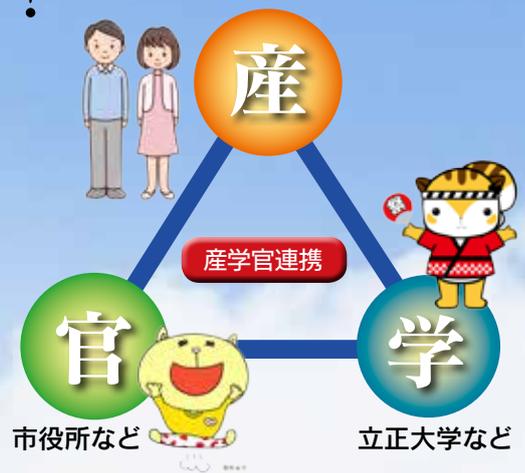
現在、熊谷キャンパスでは社会福祉学部、地球環境科学部が設置され、約2200人の学生が充実した施設の中でのびのびと楽しいキャンパスライフを送っています。

産学官 ご存知ですか？

民間企業・NPO など

"産学官ってなんの事だろう?"と思う方も多いのではないのでしょうか。「産」とは民間企業やNPO等広い意味での商業的活動をする集団のこと。「学」とは立正大学などの教育機関のこと。「官」とは市役所など公的機関のことです。

この3者が連携することで、大学等での研究開発を経済活動や政策の構築に直接つなげることができます。また、大学では、毎年産学官連携まちづくりフォーラムを実施し、教授や地域活動に取り組む学生、経営者・実務家などが講演と事例報告を発表しています。



立正大学の連携事業を紹介します！



子ども大学



大学の先生や地域の専門家を講師に招き、小学校では学ぶことができない「大学」ならではの専門的な講義を立正大学のキャンパスなどで学習します。

昨年は69人の小学生が入学し、科学実験、地域文化学習、農業体験など全5日間の講義を経験しました。



立正大学日本酒プロジェクト



権田酒造株式会社と共同で、オリジナル日本酒の制作に取り組んでいます。学生が商品コンセプトを考え、味や見た目を試行錯誤し、毎年、ここだけの日本酒造りに挑戦しています。



妻沼地区での観光まちづくりへの貢献



2012年から妻沼地区をフィールドに「観光まちづくりへの貢献」をテーマとし、観光パンフレットを作成しています。昨年度は、学生自身が現地調査を行い、妻沼の歴史・文化・自然を楽しむ2種類の地域情報パンフレット「めぬまっち」と「妻沼自然教室」を完成させました。

interview

妻沼地区での活動は、2012年から開始しました。当初の2年間は地区の現状把握に努め、学生の調査による町歩きマップなどの作成に取り組みました。その翌年は、妻沼地区の方に大々的にご協力いただき、地元愛にあふれる妻沼人16人を紹介した『めぬま観光読本』を作成しました。4年目からは、立正大学と道の駅めまおよび国土交通省の3者で行う連携企画型の実習を開始しました。

今後も妻沼地区での連携活動を継続するとともに、市内での各種連携を積極的に進めていこうと考えています。



立正大学研究推進・
地域連携センター長
片柳 勉さん



今年もホタルの光が見られました

6月17日、別府沼公園で第19回ホタル祭りが開催されました。美しいホタルの光が初夏の夜空に浮かび上がり、訪れた多くの方々を魅了しました。



熱中症に気をつけよう！

6月30日、全国16の自治体で一齐に開催される「熱中症予防声かけ出陣式2017」が、熊谷駅正面口で行われました。また、暑い夏を気持ちよく過ごすために「きもちいいぞ！熊谷課」が市役所1階に臨時開設されました。



80歳で20本の歯を

7月2日、「0・1・2・3さい くまっぺ広場」で一般社団法人熊谷市歯科医師会主催の8020よい歯のコンクール表彰式が行われました。皆さん、いつまでも健康な歯を保ちましょう！



熊谷駅・籠原駅の階段彩る涼感アート

7月5日、「暑さ対策」涼しさ体感アート事業の入選作品の表彰式が行われました。最優秀作品には熊谷西高校の福島知里さんの作品「金魚とスイカ」が選ばれました。9月30日までご覧いただけます。



犯罪を未然に防ぐために

6月17日、熊谷警察署で犯罪被害等抑止訪問隊（安全・安心とどけ隊）の出発式が行われました。式後、石原地区などを戸別訪問し、犯罪情報などを発信するメールマガジンへの登録を呼びかけました。



暑い日差しも日傘があれば へっちゃらさ！

6月10日・11日に「無料シャトルバスで行く小さないい旅」が開催され、市内の観光名所が多くの人でにぎわいました。妻沼聖天山周辺では無料貸出しの和傘や熊谷染の日傘で涼をとる姿が印象的でした。



残りの半年も元気で 過ごせますように

6月30日、高城神社で胎内くぐりが行われました。正月からの半年分のけがれを落とし、7月からの半年も健康に過ごせるよう祈願するものです。金曜日ということもあり、夜には大勢の参拝客でにぎわいました。

元トップリーガー木川隼吾のラグビーオモシロ話

● 第5回 魔法のやかん ●

一昔前までは、試合中に倒れた選手の顔にやかんの水をかけることで意識を回復させる「魔法のやかん」が登場していましたが、今では選手の安全性を高める観点から、その姿を消しました。

現代ラグビーでは脳震盪の疑いがある選手は、グラウンド外の別室に連れていかれて、片足で10秒間程立てるか、「今日は何月何日何曜日?」「対戦チームは?」等の質問に回答できるか、などのチェックが行われます。それらに答えられない場合は、強制的に交代となります。

私は、脳震盪の疑いがかかった時に、ただの物忘れで答えられないことがないように、試合前にロッカールームで「今日は〇月〇日〇曜日、対戦相手は〇〇チーム!」と、心の中で復唱してから試合に臨むこともありました。

ラグビーワールドカップ2019 推進室 木川 隼吾

◆ラグビーワールドカップ2019 推進室 TEL内線 341



みんなでタグラグビー、キックオフ!!

6月12日、タグラグビーの普及啓発を目指して、キックオフセレモニーが開催されました。市内の全小学校で4、5年生を対象にアルカス熊谷の選手が指導をします。セレモニーでは市内全小学校にタグラグビーボールが贈られました。



みんなで声を合わせて応援!

6月24日、熊谷駅構内で、ラグビーの日本代表対アイルランド代表戦のパブリックビューイングが行われました。駅への行き帰りに足を止めて試合に見入る人もいました。

市長表敬訪問



江南南サッカー少年団

7月7日 JA全農杯チビリンピック
小学生8人制サッカー大会全国優勝報告



7月6日 姉妹都市インバーカーギル市
(ニュージーランド)への熊谷女子高校生生徒派遣



左:中西 潤さん、右:親松直人さん
(バドミントン) (テニス)

6月22日 第23回夏季デフリンピック
競技大会サムスン2017 出場



江守和枝さん

6月8日 河川功労者表彰受賞報告

読んで当てよう!! 市報クイズ



今月の問題

次の□に入る言葉や数字を、それぞれお答えください。
立正大学熊谷キャンパスは、今年で□周年です。

アンケート

- Q1 今月号市報の感想をお書きください。
- Q2 取り上げてほしい内容があればお書きください。

応募方法

ハガキまたはEメールに、住所・氏名・年齢・電話番号・今月の問題とアンケートの回答を必ず記入し、8月25日(金)までにご応募ください(一人につき一通)。※回答がないものは無効となります。
《応募先》〒360-8601

宮町二丁目47番地1 熊谷市広報広聴課

✉: kohokocho@city.kumagaya.lg.jp

※当選者の発表は、プレゼント引換券の発送をもって代えさせていただきます。

今月のプレゼント

鮎 信楽の週替わりランチを10人にご提供!



※写真はイメージです



[店舗情報] 鮎 信楽
所在地: 熊谷市筑波 1-194
11:30~14:00、17:00~22:00
定休日: 不定休
電話: 048-598-8704
※引き換えは、火~金曜日の11:30~14:00

6月号の正解

特定

◆応募総数 36 通中、正解 35 通



優勝できたのは人数の多い6年生がお互いに競争して切磋琢磨した結果、みんなのレベルが底上げできたからだと思います。優勝したからといってほかのチームと違いがあるわ

サッカー全国大会チビリンピック2017で優勝して

情熱世代 夢 追い人

子どもたちといつまでもサッカーを

江南南サッカー少年団監督
松本 暢佑さん
(大麻生)

もともとサッカー経験はなかったのですが、教員になってから休みの日に教え子と森林公園に遊びに行った帰りに、東松山の小学校でサッカー少年団に出会いました。当時は熊谷近辺に少年団はなかったため、自分で作ることにしました。大里の吉見小で7年間指導したあと、江南南を率いて今年で33年目になります。最初の頃はよく負けていたので、負けては原因を分析していました。練習法を学ぶために、当時強豪チームがあった清水市に小中高校生と一緒に練習する様子を見に行ったり、少年団のOBの子たちに江南南の練習でよかったことと足りなかったことを聞いて練習に反映させたりし

サッカー少年団を率いて

けではありません。今回優勝できたのも運が良かっただけ。みんなのコンディションがうまくかみ合っただけだと思いません。練習に関しては何より子どもたちの気持ちを大事にしています。子どもたちの勝ちたいという気持ちを大切に、継続的にチャレンジさせるためには、子どもたちのプレーを認めることです。自分のプレーを認めてもらうと、やる気がどんどん出てくるのが子どもです。



サッカーを教える松本さん

今後の目標としてはできるだけ長く子どもたちとサッカーを楽しみたいです。退職後も好きなことに関わることが本当にやりたいです。熊谷はスポーツをする環境が整っているの、子どもたちにはサッカーに限らず、体を動かして、子どものときにしかできないことを頑張ってほしいですね。大人はそれを温かく見守ることが大切だと思います。

これから子どもたちとサッカーを

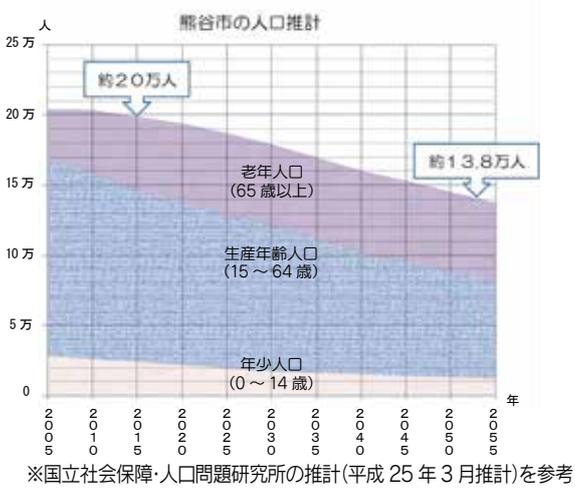
ました。そして、一番大切なことは、「楽しさ」を味わわせることです。楽しければ続けられると思います。中学、高校、大学とサッカーを続ける子もたくさん出てきています。サッカー選手としても、社会に出て仕事についても努力できる子になってほしいです。

どうする？
どうなる？

市の施設

第5回 人口減少と財政規模縮小

前回、市有施設の更新費用(推計による平均値)135億円/年度に対し、投資額(過去3年間の実績値平均)は62億円/年度とお知らせしました。現在本市の人口は約20万人ですが、40年後には13万人台にまで減少する(現状の65%相当)と予測されています。市民1人当たりの税収をほぼ一定とすると、将来的な投資額(更新支出)は約40億円/年度(≒62億円/年度×0.65)となり、投資資金不足の度合いは年々厳しくなっていきます。人口減少に伴う財政規模縮小により、施設に回せるお金は減りますが、施設利用者も減ります。人口規模に見合った施設とすることで、サービス水準を維持することが可能となります。



◆ 行政改革推進室 内線 210、216

人口と世帯

●平成29年7月1日現在(対前月比)
■人口 199,727人(-80) 男 100,011人(-51) 女 99,716人(-29) ■世帯 86,074(+32)

「市報くまがや」8月号は、73,200部作成し、広告料収入を差し引いた印刷・製本にかかる市の負担は、1部当たり16円です。「市報くまがや」は、再生紙を使用しています。

発行日 平成29年8月1日 ●発行 熊谷市
編集 広報広聴課 〒300-8601 熊谷市宮町 丁目47番地1
TEL 048-524-1111 (内線206) FAX 048-522-2670

「市報くまがや」は、毎月1日原則に発行し、自治会を通してお届けします。また、市役所・行政センター・出張所・公民館・駅連絡所などでもお配りしています。インターネットでも「市報くまがや」をご覧いただけます。(URL) http://www.city.kumagaya.lg.jp/